

第十六回 「タマノカンザシにちなんだ恋文」 選評

概評

「タマノカンザシ恋文」も今年で十六年目を迎えた。この企画が各方面からのご協力を得て継続できていることを、感謝申し上げます。

今回は過去最高の二百四十名の方々から応募をいただいた。四十三都道府県、高校の国語科、フランス在住の方など多岐にわたる。

ほのぼのとした恋歌、斬新な発想の句など秀作が多かった。この企画の理念を理解していただけたためと思われる。

即ち、「タマノカンザシ」がヒロイン。この花が咲く智頭急行の「恋山形駅」、そして駅の「恋（郵便）ポスト」に「恋文」が寄せされる、という趣向である。

この「タマカン・ドリーム」がさらに広がっていくことを願っていた。

短歌の部

（最優秀賞）

運命の人と出会えし恋ロードそつと見つめる玉のかんざし

鳥取県智頭町 山根美智子

評語 この「玉のかんざし」は「運命の人と出会」わせてくれた靈力を持っている。選者は奈良薬師寺の「吉祥天像」を連想した。秀麗な吉祥天の豊かな頬、引きしまった口もとは、タマノカンザシのものではないか。慈愛の目で「恋ロード」に立つ二人を「見つめ」ておられる。

（優秀賞）

月明かりベールふわりと花嫁や裾を広げたタマノカンザシ

愛知県名古屋市 白川 譽

評語 「月明かり」のもとのウエディングドレスで、和と洋が溶け合っている。

「裾を広げた」は末広がり。おっとりやさしい花嫁の未来が幸あるものと願った秀歌。

(智頭急行社長賞)

山峡の恋山形の駅の端のタマノカンザシいとしき君は

鳥取県鳥取市 田村千恵子

評語

「山峡」「山形」「駅の端」から、山あいの駅の片隅にヒツソリと咲くタマノカンザシがイメージされる。この花のような「いとしき君」がいる。そして「君は」の「は」は詠嘆（えいたん）の終助詞だから「いとしき君であることだ」の意となる。

(山形郵便局長賞)

君想ひたまのかんざしの香を添へて駅のポストへ恋文入れる

東京都練馬区 小林和子

評語

この歌には香を恋の「なかだち」に使うという伝統的な手法がある。「たまのかんざしの香を添え」ることにより、君への「想ひ」はいよいよ深まっていく。古歌の「さつき待つ花たちばなの香をかげば・・・」などを想い起こさせる。

(佳作)

君想う心象かたどる翠葉すいようを幾重いくえも纏まとう玉の簪

大阪府豊中市 荒木久美子

評語

この歌のタマノカンザシは作者自身。緑の葉を何枚もまとっているのは、袴姿を連想させる。作者の白衣に袴を着けた凛々しい姿である。そういう姿の作者が君（ご主人のこと）を想い慕っておられるイメージである。

夕暮れのタマノカンザシ咲く秋に恋が始まる君と僕との

神戸市立神港橋高等学校三年国語科 小柳莉杏

評語

「夕暮れ」「秋」というシチュエーションは和歌の伝統では「寂しき」の象徴であった。が、この歌のようにタマノカンザシの介在によって、若者の「恋が始まる」世界へと転換された。すばらしいことである。

俳句の部

(最優秀賞)

お転婆へ贈らんたまのかんざしを

愛知県蒲郡市 石田賢吾

選評

「お転婆」が俳句的表現。滑稽、諧謔(かいぎやく)、ヒネリといった俳句の本質を衝いた秀句。選者の訳。「嫁して二年。あのお転婆も向こう様にスナリ受け入れられたであろうか、心配だ。ワシの娘じゃもの。陽気なのはいいが、落ち着きが足りない。この花のようにキリリとつつましましやかで、賢い嫁になってほしい」

(優秀賞)

ピアノ弾くタマノカンザシ僕はチエ口

広島県福山市 藤井京子

選評

タマノカンザシからピアノを連想。なるほど、姿・形・弾音、ピツタシです。彼女はピアノを弾き、僕はチエ口を奏でる。そうです、ピアノにはチエ口がよく似合う。

(智頭急行社長賞)

はじまりは玉のかんざし香る駅

島根県松江市 宮本朝陽香

選評

初秋の朝日を浴びて、輝き香るタマノカンザシを作者はイメージしています。そのような駅で「はじま」った恋は、とても純粹で清らかです。

(山形郵便局長賞)

帰り道タマノカンザシまだ咲かず

神戸市立神港橋高等学校

三年国語科 榮姫らら

選評

高校生の句である。近い将来、タマノカンザシのような花を咲かせたい。すてきな彼に巡り合いたい。或いは、キャリアアウーマンで自分の力量をためたい。或いは、英語力を駆使して国際人になりたい。或いは、宇宙に飛び出したい、等々。

(佳作)

忘れないタマノカンザシふたりの記憶

兵庫県宝塚市 今北 葵

評語 『忘れないでね、ふたりでタマノカンザシを見た、あの日のこと。あなたの目が真剣すぎたので、私は一瞬たじろいたけど、でも、安心したの、あなたのやさしさが伝わって来て。大切にしてくね、ふたりだけの記憶、メモリー。いついつまでも』

傾城けいせいのたまのかんざし黒髪に

徳島県美馬市 坂本 梓

評語 遊女の黒髪にタマノカンザシがゆらゆら揺れています。古典美の世界を見事に構築しました。すごい句です。

キツト待ツタマノカンザシ帰ル道

東京都三鷹市 金平真希

評語 「キツト」を相手への要請ととって「キツト・・・してね」、「待つ」は女性性が男性を「待つ」、「帰ル道」は出会う場所。従って、歌の意味は「キツト来てね。待ってるわ、タマノカンザシの咲いている帰りの道で」となる。

記 審査委員長 武田博文